



◆◆◆ 本年度会長方針 ◆◆◆

「こんにちは、ロータリーです。」~心のドアをノックしよう~

例会日/毎週月曜日 12:30 ~ 13:30  
例会場/広島サンプラザ TEL (082) 278-5000  
会長/松本 猛 幹事/松野 正信

事務局

〒738-0015 広島県廿日市市本町5番1号  
廿日市市商工保健会館 4F  
TEL (0829) 31-5490 FAX (0829) 31-5491  
E-mail / office20@h-hrc.com  
URL / http://www.h-hrc.com/

コロナ感染拡大の状況を鑑み、会員皆様の健康と安全確保に万全を期すため、当クラブは1月例会および理事会、2月例会を取消する(中止する)ことに決定しました。

会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会長 松本 猛  
幹事 松野 正信

第1061回 広島サンプラザ 2021年3月1日

会長時間

会長 松本 猛



誕生祝

卓話

「新型コロナウイルスの最新情報とコロナワクチンについて」

広島県西部地域医療保健対策協議会  
特定感染症委員 渡邊 英晶 会員

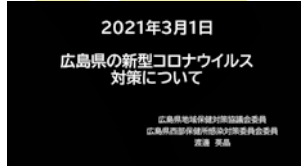


Table with 2 columns: Vaccine Name and Details. Includes Pfizer (60 million doses), Moderna (25 million doses), and AstraZeneca (60 million doses).

Table with 4 columns: No., Name, Address, and Contact Info. Lists various local organizations and their details.

Table with 2 columns: No. and Name. Lists various local organizations and their details.

Information about COVID-19, including symptoms, risk factors, and medical advice. Title: 新型コロナウイルス 注意点

Information about COVID-19 vaccination, including a schedule and eligibility criteria. Title: 新型コロナウイルス接種スケジュール

第1062回 広島サンプラザ 2021年3月8日

会長時間

理事会報告

副会長 今川 勝

卓話

「時代の変化と対応」

—人生を語る(その2)—

川崎 尚 会員



前回(平成29年8月)の卓話で主として「わが人生を語る」ということで、生れてから大学卒業までを話し、最後に「もし機会があればこの続きをお話したい」で終わりました。「時代の変化と対応」をどうとらえるかは、結局は個人の経験に基づくものですから、つまりは「人生を語る」ことになるという考えです。

昭和30年3月に京都府立医大(今年で創立148年)を卒業、1年間のインターンを経て基礎医学の1つである生化学教室に入りました。当時は臨床教室に入ると10年位は無給という時代でしたが、基礎医学を選ぶ者は少なく、生化学教室では助手の席を得て、給料がもらえましたので、4年位で学位取得後に臨床に進むつもりでした。もっとも学生時代の授業では生化学の講義が最新の学術知見を取入れた興味のある内容だった

ことも選んだ一因でした。

ところが4年で学位取得した段階で、恩師がアメリカに留学してその後も生化学教室に残るように強くすすめてくれ、アメリカのロックフェラー財団の奨学金(家族とも旅費、滞在費1年間)をもらえるように話をつけてくれました。当時はフルブライト財団奨学金が多く、旅費は自前でしたので、ロックフェラー奨学金は助手の身分では破格の扱いであり、大変感謝したのを覚えています。

留学先は恩師のアメリカでの兄弟弟子に当たるN.O.カプラン先生がトップを勤めるボストン郊外のブランダイス大学大学院生化学教室でした。

昭和36年8月に、家内と生後4日目の長女を残して京都を出発、当時は航空機もターボ・プロップ機の時代で直行便はなく、ハワイで一泊し、ついでサンフランシスコ経由でニューヨークの財団本部で奨学金1ヶ月分を受取り、やっとボストンに着きました。20時間を要しました。家内と娘は4ヶ月後クリスマス当日にボストンに着き合流できましたが、この時は利用した飛行機の不具合や暴風雪などの悪天候にはばまれ計60時間もかかりました。その道中はまさに語るも涙のことでありましたが、今回は省略します。

大学は郊外の丘陵地帯にあり、美しいキャンパスでした。研究面のことはさておき、敗戦後わずか16年でしたので、何か嫌なことを言われたりすることを覚悟していたのですが、3年間全く同じ研究仲間として温かく遇してくれたのは本当に有難いことでした。研究成果はフェデレーションミーティングという日本の5学会位が年に一度合同で開催する学会で発表する機会もあり、得難い経験でした。

住いは大学から車で15分位の自然に恵まれた住宅地区の小さいマンションでの部屋住いでした。周囲には日本人が全く住んでいない所でしたが、小さい娘と家内も近所から温かい付き合いをしてもらって喜んでおりました。この3年間は給料の心配もなく(日本での給料の7倍位)、研究の合い間にはボストン交響楽団の演奏を聞きに行ったり、ボストンフェニウエイ球場でレッドソックスの応援をしたり、実に楽しい時代でした。

昭和39年8月、東京オリンピックの年に日本に帰り、母校で研究と教育に明け暮れておりました。ところが昭和43年1月になって東大医学部でインターン闘争(無給医解消をめざして)がおこり、これに端を発した大学紛争があつという間に全国に広がり、母校でも研究室封鎖など学生ストライキがおこり、研究不能となりました。翌昭和44年の日本生化学会大会は広島である予定でその年広島を訪ねましたが、広大医学部も封鎖中でした。学会発表は紙屋町の広銀本店講堂であり、そこへ聞きに行ったことを覚えています。しかし学生の熱も長続きせず、封鎖もとけ、その年の終りには正常に戻りました。

この研究が出来ない間に、母校に残るよりは若い間に他大学に出て独立して研究できる場所を得たいと思うようになり、昭和45年になって他大学の教授公募に応募しました。幸い広大医学部創立以来の教授が7～8名定年退職されたなかに生化学教室も含まれており、公募書類が来ましたので恩師の許可も得て応募することになりました。幸い広大医学部に先輩がおられ、情報を知らせていただいたこともあって17人の応募者の中から教授に選ばれ、5月1日に赴任しました。39才2ヶ月のことで、後で聞けば紛争後のこととて若くて元気のよい人を選びたいということもあったようでした。

赴任当初は戦前のレンガ建ての兵器支廠のあとの研究室で、附属病院も同じような建物に入っていました。が、追い追い新しい建物と入れ変り現在のような立派な医学部及び大学病院になっています。私も1年後には新しい6F建ての基礎研究棟に移って充実した教育

と研究が出来るようになりました。平成6年3月末の定年まで24年間には、研究以外に3つの大きな事件に巻き込まれるという経験をしました。1つはデータ捏造事件、2つ目は北九州病院事件、3つ目は総合科学部長刺殺事件です。これらのことについては、機会があれば話させていただきます。

第1063回 広島サンプラザ 2021年3月22日

会長時間

会長 松本 猛

卓 話

「新会員自己紹介」

江草 善行 会員



第1064回 広島サンプラザ 2021年4月5日

会長時間

会長 松本 猛



誕生祝

卓 話

「時代の変化と対応」

—人生を語る(その3)—

川崎 尚 会員



前回(令和3年3月8日)の卓話で、前任の京都府立医大生化学教室から昭和45年5月に広島大学医学部生化学第1教室に赴任し、平成6年3月末まで

の24年間を過したことを話しました。

その間、教育と研究、大学院生の育成に明け暮れたわけですが、その間に普通の大学教官生活では経験することのない3つの事件に関係することになりました。1つはデータ捏造事件、2つ目は北九州病院事件、3つ目は広島大学総合科学部長刺殺事件です。前の2つは医学部が関係することでしたので、しかもいずれも犯罪性のあるものでなく、多少教官としてのモラルが問われたものでしたので今回は触れません。

3つ目は広島大学学生部長として昭和59年から4年間、医学部教授との二足の草鞋をはいていた間に遭遇した国立大学で初めての不祥事でした。助教授に昇任できると思い込んだ助手が昇任できなかったのは学部長のせいだと恨みに思っ、学部長室で刺殺に及んだ事件で、昭和62年7月下旬のことです。当日は学生部として初めて受験生2千人位に市内で説明会を開き、学生部長の私も挨拶をし総合科学部長も11学部のトップとして学部の紹介をされたことを鮮明に覚えています。翌日の朝、医学部教授室にいる時に学生部より事件を知らせる電話が入り、千田町の大学キャンパスにとんで行き、縄張りしてすでに県警の捜査が始っていた現場を確認、そのあと学生部長室で対応に当ることになりました。当日は学長が文部省（当時）へ出張していたこともあり、多くのマスコミ記者が押しかけ、質問攻めにあいましたが、事実関係は何も把握できていないこともあって対応は大変でした。当時、大学には警戒アレルギーがあって警官が構内に入ることは考えられなかったのですが、事が事だけに学長も捜査に全面的に協力することを公表し、捜査本部が現場に置かれました。しかしなかなか犯人が分からないある日、三つ揃を着こなした屈強の警察の方が3人揃って教授室に來られました。何事ですかと聞くと、実は学長先生から「外部に建物を借りるから捜査本部を外へ移してほしい」という話があり、そのことで相談に來たとのことでした。突然のことでどう判断すべきかと思いましたが、「捜査本部を外に持って行って捜査が出来るのですか」と質問すると、「それは出来ません」との返事でしたので、それなら学長に「外に出ると捜査は出来ませんとはっきり言われればいいじゃないですか」と言いました。そうすると「学長先生にそんなこと言ってよいのですか」と言われるので「良いも悪いもない、捜査続行が必須の現状でしょう」と返事し、その後の捜査1週間位で犯人検挙となりましたが、驚いたことに総合科学部の助手であり、誠に残念な結末でした。

ただ、來られた3人の警察のなかにクラブの会員である大藤良治さんがおられ、その後2、3回お会いする機会もあって、定年後に機会を見て、クラブ加入のお誘いをしたところ、快諾いただき、現在に至っているもの何かの御縁であったと思います。

昭和63年6月に学生部長の任期が終り医学部に戻り、平成6年3月末に定年、広島大学を退官しましたが、翌4月1日から広島工業大学学長として招かれ5年間勤めることになりました。その経緯をお話します。

そのきっかけはラグビーにあります。私は大学入学後にラグビーを始め、在学中の全試合に出場しましたが、その程度は草ラグビーの域を出ないものだったと思います。卒業後は研究期間中ラグビーはブランクでしたが、広島大学に赴任すれば多少時間の余裕も出て医学部の学生とラグビーを楽しめるのではと思っていました。しかし医学部にラグビー部は無く機会をうかがっていましたが、幸い2年目に本部ラグビー部にいた学生2～3人が医学部に進学してきましたので、彼等を中心にラグビー部をつくり、部長として再びラグビーに係ることになりました。

一方、同じ2年目、昭和46年4月に広島で初の少年ラグビースクールが発足し、小学3年生から参加でき

ることがわかりましたので、丁度3年生になった長男が参加することになり、私もついて観音のラグビー場に行きました。月のうち3回日曜日に出掛け、2、3回はスタンドで見えていましたが指導の小学校、中学校の先生方からもしラグビーの経験があるのなら、指導員が少いので助けてくれませんかとの話があり、私も多少健康にも良いだろうと思い指導員として低学年の小学生と一緒に遊ぶことになりました。これが学生部長になる昭和59年まで続きましたが、その間に広島にも40才以上のラグビー同好会ができ「感染クラブ」という名で各地の同様なクラブと親睦試合を楽しみました。私も40才以上になっていましたから感染クラブで広島で試合がある時のみ参加しました。特に印象に残っているのはカナダの「エバグリーン」というクラブが来日し広島でも2回試合をし、私も出場したのですが、その時のチームに鶴学園・広島工大理事長の鶴裏さんが参加しておられて、知り合いになりました。本来はバレーボールの選手だったそうですが、友人の中国醸造の当時社長の白井修一さんがラグビー協会会長だったことから素人ながら背の高さを買われて試合に出たとのことでした。

その後、私が広島大学学生部長だった時に、鶴裏さんから「広大の留学生と工大沼田校舎にある運動施設で工大生との交流をしたいので留学生を連れて来てほしい」との話がありました。往復のバス、懇親会のご馳走など3年間お世話になり、有難いことでした。

長々と経緯を話しましたが、最後に定年2年位前に鶴裏さんからお話があり、「息子（現理事長鶴衛さん）がまだ35才で若く、40才になれば世間的に認められると思うので、それまでの間工大に來て助けてくれないか、1年は慣れる意味で副学長で、その後学長をお願いしたい」といった内容でした。私は工学分野には不案内だったので思案しましたが申し出を受けることにしました。ところが定年までの1年医学部長に選ばれてしまったので鶴さんにもその旨を伝え、了承を得て、定年後にお世話になることになりました。

広島工大に勤めてからのことは、長くなりますので省略しますが、1つだけ感服したことを申しますと、平成6年3月31日午後1時に広大医学部を退出して4月1日午前9時には工大学長室にいるといった慌しいことで、4月4日には新入生を迎える入学式で式辞を述べるスケジュールでした。その式辞について初めての経験であり必死で短い期間考えて用意したのですが、鶴裏理事長は式辞の内容などについては一切口にせず、内心工学部のことに不案内である私が何をしゃべるのか心配されていたと思うのですが、式場でこやかに聞いておられました。その太っ腹に感服した次第でした。

学長2年目にわがクラブ設立の話が出て、私にも参加のお誘いがあり、鶴理事長の許可も出て参加することになり現在に至っています。

長い話になり恐縮でしたが、これで「人生を語る」は終りにします。

以上

第1065回 広島サンブラザ 2021年4月12日

## 会長時間

## 理事会報告

副会長 今川 勝

卓話

新旧クラブ協議会



第1066回 広島サンプラザ 2021年4月19日

会長時間

会長 松本 猛

卓話

「日清戦争の際、なぜ広島に  
「大本営」が置かれたのか」

郷土史家 田辺 良平 様



を置いて、天皇の動座を仰がねばならないこととなり、

明治27(1894)年8月1日、わが国は清国(現中国)に対して宣戦を布告しました。明治維新以降では初めての外国との戦ですから、国家を挙げての一致協力での戦争であることを国民に承知していただくためには、通信網の未発達な時代ですから、国内で極力戦場に近い地域に戦争を統帥する大本営

その大本営が広島に設けられ9月15日に広島に行幸されたのです。

今までの歴史書では、宣戦布告をした2か月前の明治27年6月に、山陽鉄道の開通により東京から広島まで一本のレールによって結ばれたこと、宇品に港が出来ていく戦場である朝鮮への出兵が容易であること、が大きな理由として挙げられていました。しかし、外国との戦争ですからいつ終戦になるか全く見当が付きませんし、天皇にいつまでも広島にいていただくためには、それなりの警護が必要となりますが、その点が一番に問題とされなければならなかったのです。

その点については、①広島には築城以来一度も戦禍にあったことのない広島城があり、城内には第五師団司令部が置かれて、天皇の警護には万全な体制が整っていたこと、②師団に付属しての陸軍病院と日本赤十字病院があり医療体制が整っていたこと、③30<sup>キロ</sup>地点には呉海軍鎮守府があって、陸海軍との連携が密にできること、④広島駅のすぐ北側には72万平米という広大な東練兵場があり、全国から召集された何万人という兵員を一度に集合させることができる場所があったこと、⑤天皇が好まれる牛乳が近くで生産されていたこと、海陸産物などが豊富にあったこと、などの利点により広島に大本営は設けられたのです。

そして、日清戦争の軍事費を協議する国会が広島に召集されて、明治27年10月18日から1週間の会期で開催され、貴族院・衆議院の両議員400人余に付随して多くの役人などが広島に来たので、あたかも臨時の首都ようになったのです。

翌明治28年4月に戦争はわが国の勝利で終結し、天皇は4月27日に大本営を京都に移されて、広島を引き揚げられました。結局広島には7か月間住まわれ、恙なく過していただくことが出来たのですが、戦前の広島は、このようにバランスのとれた都市だったのです。

講師の略歴

昭和9年広島市西白島町出身、金融機関・ビルメンテナンス会社・損保会社代理店などに勤務。

自著に「広島金融復興記」「広島を元気にした男たち」「わが国の軍備縮小に身を捧げた——加藤友三郎」「ふるさとの銀行物語(広島編・備後編)」「広島産業界先駆け者伝」など。

委託を受けて執筆編集の社史・団体史は「広島銀行創業百年史」「広島信用金庫五十年史」「本通り商店街のあゆみ」「渋谷一族由縁記」「西日本鉄道広島支社10年史」「安芸国早稲田神社の五百年」など30数冊に及んでいます。

現在、月刊「経済春秋」誌に「広島各業界人物誌」を連載中で、令和2年12月号で240回を迎えました。

10歳の時、東区牛田の水源地付近で原爆被災。父は行方不明で遺骨は結局見つかりませんでした。原爆被災を潜り抜けて今まで生かされてきたおかげにと、多少でも地域の役に立つことをとの思いから、原爆以前の広島史の歴史の掘り起こし、原爆で失われた著名な人物や歴史・文化の継承、歴史関連のボランティアガイドをおこなうなど、郷土史の研究に取り組んで現在に至っています。

活動報告

水保全活動

2021年2月28日

